

「成長が期待される新分野の テクノトレンド」

東京理科大学・技術懇親会のご案内

会場：神楽坂 森戸記念館

弊財団は、この度本年度第3回の技術懇親会を「東京理科大学」(神楽坂)の会場において、同大学科学技術交流センター(承認TLO)との共催により開催することになりました。

同大学は、理工系総合大学としてその歴史は長く、教育と研究を共に重視する教育研究機関を目指し、科学技術の発展を通して社会に貢献してきました。新しい分野の研究が多く行われる一方、産学官連携推進にも積極的であり、中小企業との連携にも注力しています。

そこで本会では、成長が期待される3つ分野の最近の技術動向について、同大学の3名の先生にご講演をお願いします。工学部の吉本成香教授には「超精密技術を支える流体潤滑軸受」について、また理工学部 山下正文教授には「期待されるEL発光素子の最近の動向」について、同じく工学部 谷内利明教授には「ポータブル機器用燃料電池の最近の技術動向」について、ご講演をしていただきます。

途中、同大学の近代資料館の見学を挟みますが、講演終了後には、講師の先生やスタッフの方々と懇談や参加者相互の(異業種)交流のお時間をご用意しています。

つきましては、日頃より産学官連携による自社技術の新分野・新技術への応用に高い関心をお持ちの貴社に、ビジネスの新たな展開に向けた一助となりますよう、ご案内申し上げます。

[開催要領](#) [参加申込書](#) [会場案内](#)

【講演内容】

『超精密技術を支える流体潤滑軸受』 吉本成香教授

流体潤滑軸受は摩擦が小さく運動精度が良いことから、超精密加工機、精密測定機、情報関連機器に数多く採用されており、ナノメータ・オーダーの精度実現には欠くことのできない機械要素となっている。最近の研究事例を解説する。

『期待されるEL発光素子の最近の動向』 山下正文教授

様々な機能の集積化をともなうデバイスとして有機EL素子が注目されている。光ネットワークの波長変換モジュール、光吸収で電力を発生するディスプレイ、外部環境に応じた明順応ディスプレイ等への応用に向けた最近の動向を解説。

『ポータブル機器用燃料電池の最近の技術動向』 谷内利明教授

エネルギー密度がリチウム二次電池の数倍とされるダイレクトメタノール型燃料電池(DMFC)を中心にポータブル機器用燃料電池開発動向について解説。また独自開発のジグザグ型DMFCの製法や電気的な諸特性を紹介。

開催日 : 平成17年10月21日(金)

主催 : 財団法人 リソナ中小企業振興財団

東京理科大学・科学技術交流センター(承認TLO)